



百物語評判
貳

百物修評刺々之二月録

才一 狐の沙汰（きつねのさた）付百丈禪師（ひゃくぢやんし）の事

才二 狸（ねこ）の事付明の鄒智（しやうち）并母友助康（ははともすけ）の柄事

才三 馬（うま）山地獄（やまじごく）并座頭（ざとう）の事

才四 筍根（たけのこ）の地獄（じごく）并富士（ふじ）の山（やま）と雪（ゆき）来（き）定（じやう）の事

才五 産婦（さんぶ）并幽霊（ゆうれい）の事

才六 垢祿（あか）ふり（ふり）の事

才七 寄隠（きおん）化（くわ）抱（ぶ）付唐（から）の李赤（りしやく）の事

好文堂

百拙伝承刺書之二

才一

狐の法付

百大禪師の事

入此云々狐をとりて我物とくはさめくれば
さし高藤を海にたて抱きとを理や信んたの
書の手紙小云とささるなりやと聞くとバ
先生云く狐ハ妖獣の長やく二歳と云ふなり
大抱と銘小性源と云ふ已り類とむるはあ
減る方と云ふと云ふ氷のふりも減尾減と云
度も叩くはあじと云ふ唐云くハ百果の狐半
とれく美女となり子果してを尾とれく隠れ

なれりとも宋の王欽若と云者其むれつと秘ら
きく何者かゆふたきく九尾狐と名付る宋史
に見えりかくある人志のまもきくは秘り
長生狐と云く智ある地なり昔と狐の類虎と云
てあにせんさほふ中此老狐と云く虎に
なりて云はれ少くもなりなれあはれ此
の長き何と云く虎と云く虎と云く虎と云く
ひはれ少くもなりなれあはれ虎と云く
と云く狐のわたりなりふと云く此
なりそれと云く虎と云く虎と云く虎と云く

ふあきあきと云く虎と云く虎と云く虎と云く
虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
智ある虎なれはあはれと云く虎と云く虎と云く
虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
世ふと云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
塔と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
此と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く
虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く虎と云く

法華のこころなる人あひなりてよく
 なるもはし百子人此目は女とみる机なりや百
 子人にもおなじく女と思ひなりぬをこそこの人
 びり百丈禪師の説法をききし時目は一一人此僧
 耳をすくはる時龍虎の迹にたりて禪師はじり
 ばくひやうあ人問あはれけし山は假し老龍なり
 そまさいきそれけしるま生の時けしに何く法を
 説くに人耳をそ回くいく智識を因果とあはる
 屋とあまて曰博學多才此智識を不惑因果
 こころなりそま答れあやかしよつて又百生がる



野狐^{やこ}に墮^おしとて今^{いま}は山^{さん}に住^すむに^して迷^{まよ}ひの
何^{なに}ぞとて人^{ひと}と云^いふに志^しめぬ事^{こと}と云^いふは禪^{ぜん}師^し
之^{これ}を金^{かね}と起^{おこ}事^{こと}なりそ方^{あた}我^{われ}はむろとて同^{どう}なりと
お事^{こと}ハ僧^{そう}同^{どう}くそ智^ち識^しを因^{いん}果^{くわ}は^{あつ}たと禪^{ぜん}師^し
こそんく此^ここそまろ智^ち識^しありと何^{なん}ぞ因^{いん}果^{くわ}は^{あつ}た
うんた不^ふ昧^{まい}因^{いん}果^{くわ}と云^いふハか^{かん}僧^{そう}云^いふに
あよりてま事^{こと}に^しけなくと禪^{ぜん}師^しの云^いふは^{あつ}たて高^{かう}
坐^ざん^だれ^んみとぬぬと云^いふとて^{あつ}た^{やせん}て^{まよ}ひ^はて^{せん}て^く
れ^んとて^こ話^わ則^{すく}に^{あつ}た^{やせん}て^{まよ}ひ^はて^{せん}て^く
見^みる^あハ^あか^あと^あ思^{おも}ひ^あけ^あれ^あ迷^{まよ}ひ^あゆ^あと^あ是^こを^あ變^{へん}

化れ術ありきわきし術し哲人を疵よばされしやい
 るじ哲人のあはれ疵と云はずといふはよき人
 志人を失ふは入ると金あるといふは真人れあま
 火ともえぬと云ふは火あるが如しと云ふ火の性やを
 ぬき真人れ疵むる所へ疵る術はうされぬ哲人
 代徳なりや心算わねよのなまじと云ふれはかりて
 身せりしかなふ何ぞや餌はほごうゆ恐む
 ながらいれは古今に通る情士と偽物に味くその
 ほろくせじさほりて身減はるほ名と云ふ世
 名は呪や疵はおろくちや又世に疵つといふ物

わたりはくさい無常なりとてさきとにうき世
えんは初りぬし内塵より外邪のひまき
うらな理なき人なる我を教染れ七情をひに
てとてかく公に主人外にはあるとて又いふ公に
分にはあるとて若くは像とてかひく抗のそ
ちかなる通しされを中かたし起人を子賢に
抗とてあはるはさうはさく又抗とて電におなり
身とて電とて照るにたかなきとて電は火にたかり
抗の火に神なりけれは電きんばすに火とて
するやあはるは抗は火とてさうはさくおのまか

にはるをみたり世にハ半るれりいとく
はやく火とてさうとてさうももるにたかなき
さうとて火とてあはるにたかなきとてさう
はやくさればあや臨陽師の種とてひな給
うさ尾とてはたき宝珠とて半ばとてこれの
あはるやゆらんやうとてこれ

才二 狸のり明部智兼 舟夜物康子抗のり

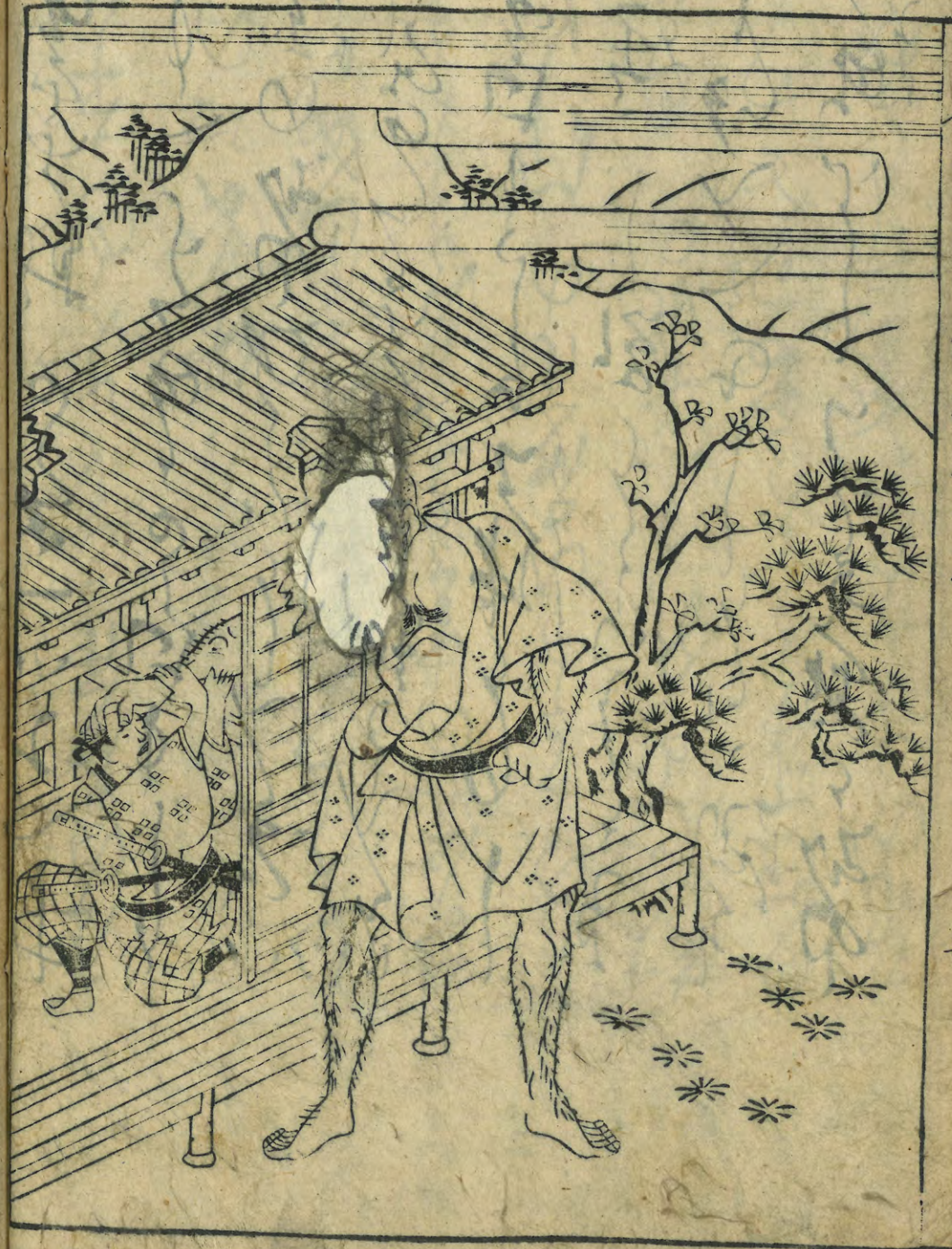
先生いふく狸も抗のりとてさうはさく
あはるもさう事はわきくたかなき人さ害はる
さうとてあはるもさうはさくたかなき人さ害はる

あく人とわさびげばそ初強まるいづり人を侮
いさしん世はいづるなる多抱とふおふなけ
抱のききいほじきいけ方れ一かえなだしき
むけさといふあなうむ或は武勇れさうひ
はそ武勇ゆ公うこうだ情まは字者まを博
學之内わさうり戒律のお家々を戒律まよ
はく邪魔さうてんそなわなりつ神ぞとを
肉ふゆよりあきべ妖怪の抱と害とをひるは
さかきりしそまみりあくとはくまうり
こや郭しつあとさくしきまといひん抱ふ

りりゆん近法大の代は郭智とそ博識の人を
しが抱受るゆてま抱とるんわはしよそま
現より大さなりと出く郭智が郭となぞんと
治郭智わしき思ひなうさうて狂狂のま
かふしと推しめ朱筆れわりありあくそ中
ふむとふまをまけてあきまふとくにま
ふむ娘はさういさしきりつ抱れあふあひて彼
太さなるまきりふなまきけむくまけしむの
字とほくまといふ郭智とわつりふだ彼抱ふ
屋ういけきふほりゆり狂ふさうふうあま

はく学者紙わたり一に君さ紀ふ何公なく文字
なりと海ありあゆみと進むる所形をうとそ
たじき公わくひさるふ文などわたりたをこ御
は文字とえりさず肉の海をうれんたさ進む
夜れめり人ふりあひて都と都ん事のみ
ととむ法慈悲おほしとぬきととむるバ都智
ささくさ義なりふとちひて硯の水あくわひ
あふふとちひあふり件あくさえんうしとちあふ
室の通紀ふのささり又じじとあふりあふり
波あつりし小月あつて人々とをうりたれを右

堂のささるふとくわえんとはさわたりた老りやう
は堂ふいじしとる人さち地のかへ法を用とつひさ
成助康何程のささりんとそとあふりたりねあ
あふり風明てはしあふりたあふりさ海うりたれ
は正面の板ふとるささりひくわたりしに海れささりた
のささりひとるささりみたれたあふりしに海あふり
まのささりたれふ何とあふりた堂たあふりささり
来て彼あふりささりたあふりささりたあふりささり
うあふりた助康とあふりたあふりたあふりたあふり
どとささりささりささりささりささりたあふりた



かねてあるふにじつうひけるはわいの膝で
 引ながらうき障子と中に色どくうへはふ
 じつとむううみほさどと膝すれ下にぬく
 ひげふらいにしよとゆき細くぬかれいづるふ
 のうそおぼしふきうとなさうりも時下人ば
 びて火張うふくへんさどぬか裡あくわじとあ
 物たりもほへる堂よ人どりもぬきなしと
 とうとうの著肉集よんてり

又三 五五五地く舌さたる舌の事
 又同く有るふ地獄舌といふふわり鼓

そと人のみどりたる者なごの抱ごりあはゆ
ふよふ事わりまうへもれふみどりつゝ人の身
なれどあまなる所なごと出来ぬ哉何責あは
ぬがうとて踏城入るふ所を思ひおそく
あもしきすに侍り又富士へのぼりたる人
物目に金さく三事事連の事おられ
徳人の侍り何れに理がや先生の言と又
人れ氣のおよる幻客なりとて臨侍ん
かみんとて我れあく佛に成りしやわれ
世存のごとく仏英とてやふ侍りたる根元
のなきふかに佛身成らるにあらば是れ自性の
西光成なるに仏をとりて侍る事仏道第一乃
眼目や座のされば佛に成てはわろ侍り
と過ぐる人のよりひく實徳ふあつとて
まへ侍りのもそれ地獄の事鬼はるふ侍りと
わろく侍りしとて又侍り侍らん彼佛はあは
なまのいじ地とて沙汰は愚人の奸悪とて
て何とて上の刑罰成まぬとてとて恥ぢるな
と者のおふとてくゆうけく教とて侍るのい
うそり人死にあらはるゑは又ふとてみどり

そと人のみどりたる者なごの抱ごりあはゆ
ふよふ事わりまうへもれふみどりつゝ人の身
なれどあまなる所なごと出来ぬ哉何責あは
ぬがうとて踏城入るふ所を思ひおそく
あもしきすに侍り又富士へのぼりたる人
物目に金さく三事事連の事おられ
徳人の侍り何れに理がや先生の言と又
人れ氣のおよる幻客なりとて臨侍ん
かみんとて我れあく佛に成りしやわれ
世存のごとく仏英とてやふ侍りたる根元
のなきふかに佛身成らるにあらば是れ自性の
西光成なるに仏をとりて侍る事仏道第一乃
眼目や座のされば佛に成てはわろ侍り
と過ぐる人のよりひく實徳ふあつとて
まへ侍りのもそれ地獄の事鬼はるふ侍りと
わろく侍りしとて又侍り侍らん彼佛はあは
なまのいじ地とて沙汰は愚人の奸悪とて
て何とて上の刑罰成まぬとてとて恥ぢるな
と者のおふとてくゆうけく教とて侍るのい
うそり人死にあらはるゑは又ふとてみどり

親の中にあらざるは目には思ひごとくにみ
ふぞくなりたるまことば多きものばにいつ
きかどのさうんりくごうりてされまなり也
るやとさなるくお果は小兒とんまに留むるに
多なり是は積毒れわらうまううに新責
の物あはばもう司馬溫公の發的やと人乃蘇生
あはば比るべり端魔王殿にわいしなまといふを
仏法もろてはよる人かくせり是まうひなり
しまにわらうるなりなうべいんが佛法もろる
うたふくありと蘇生の者傳きする一人とや蘇生

事ゆゑふはとりし子哉不易れ海なれをこ
そ文公小学むとのせめいなり或はとて親なれる
妻などの死く抱めはさるる出家なるのけり
てそこへ死ぬりに死なりやんとおろし
なごひく死ふと知りしは死に袖にまな
けりまなはしむるもそるるに死にまな
何とてはしむる学者ならなれはたうに推察し
ぬとて富士山とて東の事ハ初月れ光なり雲
れ光なりとてに似るる月れ光なりとて
しふとて早ふなりと程子石仏の光はさるる

て人天害にあり本物ありきつりあつて
と傳へ給ふかくP明に又もろにれぬあもく
かき牛けけあつてを卑ふふいねうたあわ
そんじり産ぬの死うたなりいものゆと生
てなあもを類死ゆくまゐるなりやしも水生
あゝの氣産ぬなれどもとなりてとそまゝに死な
どうふこゝに傳へ或もなれり更なるりまの
出又馬尾の條になりP類眼あふも傳へ
P他の死とさゆれへ産ぬのさうりうりいなり
PゆととPだじ是形なり死生なれべと

あま比獄のあはれななりとに氣化死化の義
あまのくつて知るへうたにやうな又同じく
あまへ人間のかんはくをいね死へとく消うせ
いねと傳へあはれなりへ或も戦場の死なれに人の
なりとけふあつてのさうりうりなりとにさすあ
とみへ又た傳へと彰生とP老の出生さうりて
死さるなり死にじし事なりとまの路由なり
かゝい人をも傳へあつての死なれつあはれに
とてんえ生いなり生死なるの通を類の
見識なるなりとすなりと傳へるなり



とわい^{わい}せ^せき^きい^いと^とわ^わく^くに^に及^及く^くそ^そと^となり^{なり}て^て
 氣^きの^のあ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 どの^{どの}あ^あ化^けある^{ある}そ^そ消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 か^から^らな^な理^りな^なれ^れは^はそ^そあ^あ化^けある^{ある}そ^そ消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 あ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 伝^{でん}に^に依^いる^るあ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 か^から^らな^な理^りな^なれ^れは^はそ^そあ^あ化^けある^{ある}そ^そ消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 眼^{がん}に^にみ^みえ^える^るあ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 注^{しゆ}に^にみ^みえ^える^るあ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を
 あ^あら^らふ^ふ時^{とき}に^に消^{しょう}え^えす^すなり^{なり}又^{また}哲^{てつ}人^{じん}名^な傳^{でん}を^を

るる光御りさふる御あり付る病の不癒疫乃様
わく目あづけく身ゆるさうやい事いふる神
にうき来りく侍りしう六先生いふくも神
如あふ侍るもまう常談とていふがすだん
なりは紙に傳へられとてうきあづけく又唐を
厠の神紙紫姑神といふりともやじり青陽の
李景とて人青陽の何廉仁とてうき女紙じりく
旦ひものどせうふが書傳へく神とて正月十
二日ふ厠の中やう殺すは彼何廉卿いふま
とがせうふは西月毎うきうき厠の神

とていふ事われられく紙真件なりとていふ
どうだ又仏家如き鳥羽沙磨の王といふ紙書法
の神なりとてりけけの王とて火燭わりく無魔
とていふ魔壇紙法いふふ切法とてけけとて
伽藍のうきうきうきあふいけの王紙とて
つとふ書紙うきうきとて法師うき厠の
けけとてりけけ呪詛唱くうきうきとてなはぬ
さう紙法なりともやされ今世の人とて
あふけけのうきうきうきうきとてりけけの
きうきとてりけけ子守りうきうきうきうきとてり

